

南野川ふれあいの森から、冬の活動のご報告です。

野川はあもつうしん

南野川特別緑地保全地区管理運営協議会

2011. 春号

<http://haamo.216.jp>

2011(平成23)年4月20日発行

発行者: 会長 小林菊代

電話 044(856)5201



2011 年度のメニュー発表！

毎月第1日曜日(5月と来年1月は第2)が、野川はあもの活動日です。南野川ふれあいの森で、雑木林を手入れしながら、生き物の観察などを子どもも大人も一緒に楽しんでいます。

となたでも参加できます。一度遊びに来て下さい！

活動予定日 (原則第1日曜日)	作業	観察テーマ・遊び
5月8日	下草刈り・看板と柵の補修	花と昆虫のかかわり・イチゴ狩り
6月5日	下草刈り(どんぐり広場)	「子ども樹木博士」を目指せ！・フィールドビンゴ
6月26日		夜の観察会(夕方から)
7月3日	下草刈り(野草を楽しむ散策路)	つる植物マント群落の観察・七夕飾り
8月7日	(自主活動 下草刈りを予定)	
9月4日	下草刈り・倒木落ち枝の整理	虫こぶとクモの観察
10月2日	下草刈り・倒木落ち枝の整理	秋の花ときのこの観察
11月6日	どんぐりの植え付け伐採抜根・間伐	種の行方
12月4日	巣箱の取り付け	樹木ウォッチング1 巣箱作り
1月8日	落ち葉かき	樹木ウォッチング2
2月5日	落ち葉かき	冬芽・葉痕の観察 落ち葉ダイブ！
3月4日	シイタケの駒うち	春探し

雑木林は、人の手を入れなくては荒れていく一方です。野川はあもは、この森を公園のようにきれいにしていくことが目的ではなく、雑木林としてそのままの姿を維持していきつつ、子どもたちが遊び、いろいろな人たちが集い、自然を体感できる場所としたい、この森が持っているたくさんの宝物に気づいてもらいたい、そしてこの森を守り、たくさんの人とともにこの森を育てていきたいという思いで活動しています。

会員募集中

落ち葉って、重い？

平成22年度 第9回（通算77回）活動日：2011/1/9 天気：☀️

参加者：21人

澄みきった青空の下、「明けましておめでとう」の元気な声が静かな森に響きます。今年の初めての活動は、まきちゃんが大きな声で「森のおやくそく」を読み上げ、始まりました！日差しはあるものの、気温は3度前後、やっぱり寒い。いつもの体操に加え、全員一列になって背中をこすり合い、体がほぐれて準備完了です。



今日の作業は、野草を楽しむ散策路の落ち葉かき。ふっくらと積もった落葉を熊手で掻き集め、シートに入れて運びます。

落葉の下には、草花の芽や種が静かに眠っています。こうして落葉を掻くことで、陽の光があたり、たくさんの草花が育ち、森が豊かになるのです。また、集めた落葉を山の地肌が見える場所へ運ぶことで、乾燥や雨で土が流れるのを防ぐことができます。

大人も子供もヨイショヨイショと落ち葉を掻き集め、体はポカポカ、汗をぬぐいます。



ふと横を見ると落ち葉の中から竹の子ならぬ人の子？子供たちが落ち葉のベッドでひと休みでした…

さてさて、春にどんな草花が顔を出してくれるか楽しみですね！（小松秀次）

落ち葉掻きの後、落ち葉の観察会を行いました。

まず、落ち葉の重さ調べです。落ち葉でいっぱいの地面を、だいたい1m四方の小枝で囲み、その中から落ち葉だけを集めて袋に入れました。その袋の重さをバネばかりで計ったのですが、その前に、参加者がその袋を持ってきて、重さのあてっこをしてみました。「これは軽い、500g くらいじゃない？」という声から、「いや、案外重いぞ。2kg はあるよ」という声まで、いろいろな意見があったのですが、正解は 800g。



「案外軽いんだね。落ち葉掻きの時に運んだ落ち葉はずいぶん重かったけど、小枝とか落ち葉以外のものも、いろいろ混ざっていたからかな」という声も聞かれました。次に重さを量った落ち葉を、1.4m×1.5mの白布の上に広げてみたのですが、この大きさでは十分に広げる事が出来ませんでした。5倍位の広さが必要なようです。

その後、小林さんの解説を聞きながら、積み重なった落ち葉から土までの間を観察しました。落ち葉には微生物が働いて、分解されたりして姿を少しずつ変えていきます。落ちてから3年位経つと、もう葉っぱの形は留めておらず、腐葉土になっていきます。葉っぱと土がまざったような状態のものも観察しましたが、これで50年位経ったもの。そしてその下には黒い土があるのですが、落ち葉がこの土になるまでには、なんと、千年もかかるのだそうです。つまり、この土のは、千年前の落ち葉！ 遠く平安時代の野川の地に思いをはせた参加者もいたようでした。

（田原 一彦）

NHK ボランティアネットに、野川は

あもが登場！1月の活動日の様子が詳しくレポートされています。

「NHK ボランティアネット 野川はあも」で検索してみてください。

<http://www.nhk.or.jp/nhkvnet/report/article15.html>

チビッコパワーおみごと！

平成22年度 第10回（通算78回）活動日：2011/2/6 天気：曇り

参加者：27人

あたたかい二月の活動は落ち葉かきでした。

ずっと雨が降っていないのでかわいた落葉の層はフカフカです。ただ、出会いの広場の落葉は風で飛ばされてしまい、土がむき出し状態だったので広場には落葉をまくことにしました。そこで活躍したのはチビッコ達です！葉っぱを両手いっぱい抱えてはまき♪抱えてはまき♪を繰り返して、広場一面に落葉のジュウタンが敷きつめられました。頑張ったチビッコパワーおみごとです。



こもれび広

場では枝拾いしてから熊手で落葉をかき集めました。こちらで活躍したのは小学生チーム！かき集めて山盛りの落葉を見てほっておくわけありません！山を崩したり埋もれたりで大ハシャギ♪とってもはかどった！はかどった…？落ち葉かきでした。

午後は巣箱のかけかえをしました。中はどうなっているか皆ワクワク♪♪♪あけてみるとシュロや犬の毛にまじって桃色水色の毛玉で作った巣があり、卵の殻ものっています。「巣立ったんだね～」とみな感動！！



もう一つ

の巣箱にもシュロや苔の森素材の巣がありました。子育てしたかはわかりませんでした。

チビッコの頃から森で遊び作業してきた小学生チームは巣箱の取り外しや掃除、付け替えもコツをつかんでいる様子！「頼りにしているよ！チビッコたちにも教えてあげてね」と言うのと「もう少し大きくなってからね」と返答あり！た・の・む・よ！小学生チーム♪（畑野高子）



春 近 し 。

平成22年度 第11回（通算79回）活動日：2011/3/6 天気：曇り

参加者：22人

啓蟄(けいちつ…冬ごもりの虫が顔を出す日)。暦にふさわしい穏やかな天気でした。

観察のテーマは「小さな春を探そう」。森さんの解説を聞きながら、ルーペ片手に花の観察。たくさん種類の花を見ることが出来ました。春、最初に咲くのは小さな野の花たちです。他の植物が大きくなる前に花を咲かせ、受粉を済ませる為だそうです。受粉が済んだとたん花をポロッと落とすオオイヌノフグリ、確実に受粉させる為に花の中に虫を閉じ込めてしまうヒイ

ラギナンテン等、それぞれが種を残す為に工夫しています。

そして、今日の作業はシイタケの駒打ち(菌を埋め込むこと)です。コナラの倒木をノコギリで切ったら、工具で穴を開け、穴の中に駒を金づちで打ち込みます。その作業のほとんどは子ども達がやりました。大きな子が優しく教え、小さな子も立派に作業。いっぽう子ども達を見守る大人達は、「次はナメタケがいいかな」と、気の早い話をしています。収穫が待ち遠しいで



たよ。(辻 恭子)

すね。
森を楽しんでいる笑顔につられたのか、暦のとおり、てんとう虫にも遭遇しまし



と思います。沢山探れるといいですね。その後は、こもれびの広場と隣地との境界の柵が壊れているの

で、木の枝や竹でバリケードを作り、隣地へ入れないようにする作業を行いました。

森では、ニワトコやキイチゴの冬芽がほころび、ムラサキシジミがヤブツバキの葉の上で翅を広げて暖をとっていました。てんとう虫やカナヘビにも出会え、春本番が間近にせまっていることを実感した一日でした。

(森 正俊)

午後からは、シイタケの菌を打ち込んだホダ木に水をかけ、ビニールシートに包む作業を行いました。今回はホダ木の本数も少なかったため、作業はすぐに終わりました。来年の秋にはシイタケの収穫ができる

森のブランコ た～のしい～♪

平成23年度 第1回(通算80回)活動日:2011/4/3 天気:曇り

参加者:24人

4月というのに寒い日でした。それでもたくさんの春の花を観察しました。そして23年度の総会をこもれび広場で行った後、午後はブランコを作って遊びました。

まずブランコを作る場所決めから。「足元が安全などんぐり広場がいいと思う」という意見にみんながうなずき、ロープを持って向かいました。こんな時の子ども達の動きは早い!時間はかかったけど、子ども達だけでなんとか枝の2ヶ所にロープがかかると、早速ブランコ開始です。

子ども達がかわるがわる乗ったり押したりして、アルプスの少女ハイジの気分を味わいました。公園のブランコとは揺れが違う!いつの間にか隣の木には、別のアトラクションができていました。ブランコと同じくらいの高さの枝にロープをひっかけただけのものですが、ロープの端に棒をくりつけ座れるようにし、逆

の端をみんなですりこみ、エレベーターの様に高く引き上げるものでした。こちらにも急上昇急降下でスリル満点!大人気!



こんなに腹をかかえて笑った活動も久しぶりでしたが、こんなに楽しいと思えたのは、大人も子どももあーだこーだと言いながら、その場にあるものを工夫して使い、具合の良くない所を改良して立派なブランコを完成させていった過程があったからだと思います。そこが、とってもはあもらしいなあと嬉しくなりました。(岡幸子)

《編集後記》

平成22年度は、4月から翌3月まで13回で、延べ316人の出席でした。平成16年に活動を始めてから初の300人台です。また、思いもよらず多くの賞をいただいた年でもありました。特に6月の緑の愛護の集いで国土交通大臣賞をいただき、喜びと同時に今後の活動に対する大きな責任も感じました。

3月の大震災に際し、被災者の方には心からお見舞い申し上げます。そして、とてもさやかなことではありますが、野川はあもは、地球上のあらゆる命の不思議さ多様さ、偉大さ、それをはぐくむ大気や大地や水や海といった環境について、知り、学び、子どもたちに伝えていくことを、活動を通して続けていきたいと思っております。

※ご意見、ご質問などは、[メール haamo@216.jp](mailto:haamo@216.jp) もしくは、☎856-5201(小林)までどうぞ

- 南野川ふれあいの森は、川崎市が地主さんからお借りして、市民に開放されている土地です。また、都市緑地法により特別緑
- 地保全地区に指定されています。これにより、許可なく、建物等の新築や宅地の造成などを行うことは禁止されています。